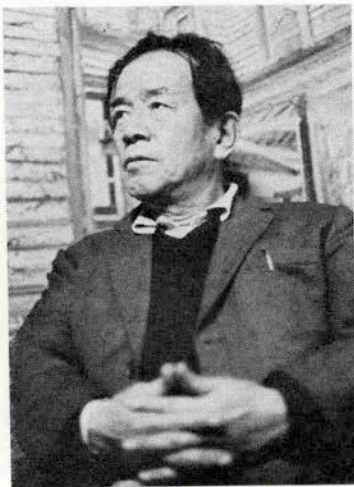


□わたしの意見

## 異人館に 思うこと

小松 益喜

〈画家〉



私が神戸に移り住んで、山本通り、北野町、居留地などにある異人館の絵を描き始めたのは昭和7年のことだから、もう40年以上も絵を通して神戸の街をながめつづけてきたことになる。

当時、山の手の北野町界限や海岸通りの居留地などにはエキゾチックな異人館がぎっしりとつまっていたものだが現在ではもう数える程にしかない。戦争中は北野町に住んでいた、ジーベル・ヘグナーさんというスイス人の方がアメリカ軍に異人館の爆撃の回避を要請するなどして保存につとめたが、現在では建物が破損したりとり壊されたりして年々異人館の姿が神戸の街から消えていくのは何とも心淋しいことである。

私はこの40年間というものの、雨の日以外はほとんど毎日山の手に足を運び、異人館を描き続けてきた。その数はもう数百枚以上にも及ぶが、私の半生を通して見た異人館や、そこに住む人達の移り変わりはそのまま神戸の街の変遷の歴史でもあった。

昔はそうでもなかったのだが、最近ではトアロードの上の方に座って描いていると一時間もすれば頭が痛くなってくるのは排気ガスや空気汚染のせいであろうか。公害といえば北野町あたりの銀杏の木の葉が昔より小さくなったし、木立ちも少なくなったようである。代わりにホテルやアパートが乱立し、異人館の姿がその中に埋没してしまったのは昔の面影を知る者にとっては残念に思う。神戸のこの貴重な文化遺産を大切に保存していくのは市民の責任であろうと思うが、ただこうした異人館のような建物は周りの環境とのかねあひが大切なので、建物だけをきり離して移転し、保存するのは好ましいことではないと私は思う。したがってあくまで生活の場と結びついた現地での保存方法を考えていくべきであろうし、また建物の修復費などは市で補助をするといったことも考えてほしいところである。

私は神戸に異人館が失くなるまで神戸を離れないし、死ぬまで神戸の異人館を描きつづけたいと願っている。

美しい時計をつくり続けてきました  
 スイスで1791年から……

No.9015 ステンレス側 35,000円  
 金 張 側 35,000円



永久に正確な時を刻むジラル・  
 ペルゴ。香り高い芸術の気品  
 をしのばせるデザイン。世界に誇る  
 スイス時計の逸品です。

特約店  
 美甲時計店

GIRARD-PERREGAUX

元町店・元町三丁目 TEL331-1798  
 三宮店・さんちかファンシー・タウン TEL331-8798



# 随想 三題



メキシコ・トゥーラー

## 中南米雑感

### 嶋本 昭三

〈画家〉

ぼくは海外旅行が好きで、大洋州をのぞく南北アメリカ、アフリカ、ヨーロッパ、アジア中近東の奥地などを歩きまわったという話をする、知らない人は語学がよほど堪能なのかと思うかも知れないが、それが、カラキシだめで、今度のアメリカからブラジルへの縦断旅行もヒヤヒヤの連続であった。でもぼくは歴史学者などではないし、言葉の通じぬほうがかえって冒険の感じにひたれるのであ

って、かりに月にゆける時代が来たとして、すべて日本語が通じて月に降りたとたんに「日本ムーン観光」などという看板があると想像しただけでもゾッとする。そんなわけで、ぼくは語学のできないまま、この次は目をつむって地球儀を手でまわし、針をさして当ったところに行ってみようと思っている。そしてこれがぼくのパーフオーマンス（行為の美術）でもあると思っている。

このような前書きはぼくの語学のできない弁として受けとてくれたかどうか知らないが、メキシコはトゥーラーの奥地原住民オトミ族の家に泊りブルケ（電舌蘭から作ったドロク）をのみタコス（をくわしてもらったときは本当に弱った。何しろメキシコシティのこの二千メートルの高原をヒッチハイクで車にのせてもらって一日中真直まるで平原のような山を走りいい加減なところでおろしてもらったらもうメキシコ語も通じない。通じたところでこちらに分るわけではないのであるがやはりさびしい感じがするから妙なものである。タコスというのは、ダコとは関係なくてとうもろこしの粉を丸くうすく焼いてつくった皮の中に紫色の大豆の煮たのが入っているオムレツのようなものである。もっともメキシコシティに行くくと

肉やたまねぎなど色々入っており、日本のタコスは卵などもっといろいろ入っているが、何しろ一個二、三円ぐらいのこのタコスにとびあがるほどおいしいソースをかけてブルケを飲む。犬のように舌を出してハーハーいっているとオトミのオッサンが手をグーとにぎってその親ゆびのつけねのところに塩をのせてなめるとよいと教えてくれた。

ペルーはクスコの町。ここは数千メートルの山々にかこまれ、あの貧欲なピサロでさえもついに見逃したインカ最高地最大の遺跡であるマチュピチュへの中継点である。何しろ富士山ぐらいの高地なのでいきなり飛行機で着いた人は、一日そこで休むことになっているが、言葉の分らぬぼくはその意味が分らず時間のブランクにブンブンしながらクスコの街や、近くのインカの遺跡を見てまわったが、いやに息切れがする。このインカのつくった石垣はカミソリの刃一枚入るところのないようにびつたりと積み重ねられていて、現代の七不思議の一つ、その石垣をうまく使ってつくられたナイトクラブに入って渡された酒器は何と梅毒患者の顔であり、セックスする男女のびんよりチツチャががれた。インカの時代はセックスや性病対策について高い関心がもた



ベルー・マチュピチエにて

れ、非常に明るくこれととり組んで梅毒面の酒器をまわしのみするゆとりとユーモアを彼らはもっていたということである。

## 新平家物語顚末記

山本 芳樹

△山陽電気鉄道幹事課長△



NHKの「新平家物語」も終わった。期待していた一の谷合戦も実にあっけなくすんだ。そしてブームは遂に来なかった。

「春の坂道」で柳生の里が観光ブームを呼んだ例に倣って、新平家ブームを神戸に招来せんものという意気込んだのはわれわれだけではなかった。物語の中でも清盛の福原遷都と義経の一の谷合戦は重要なポイントである。ましてこの一

の谷古戦場と景勝の地で知られる須摩浦公園と山上一帯に施設を持つ我々としては、この好機を捉えて大いに旅客を誘致しようと思つたのは当然であろう。宣伝担当員も張り切ってみんなでいろんな家を練った。

一の谷、鶴越論争はともかく、われわれとしては義経の逆落しの場所はいくまで、鉢伏、鉄拐山の東南斜面で、現在の須摩浦公園一の谷附近である。そしてこの戦線は東は生田の森から西は梅ヶ鼻、即ち現在の当社須摩浦公園駅附近が平家の西の砦であったことには間違いない。従って公園駅と鉢伏山上の展望閣を平家の砦に設定して矢楯と赤旗を林立させよう。三の谷を上るロープウェイの山上駅前からは、生田の森、和田岬、須摩寺、白い須磨の渚と一の谷、戦の浜、眼下に敦盛塚など源平史跡が一望できるから、ここには案内図板や琵琶演奏入りの案内テープを流そう。展望閣では史跡展を、山上遊苑では源平武者の切出しを斜面にたて、野外パノラマ展を、噴水パレスの春のおどりの一部には直実と敦盛を登場させよう。撮影会も義経ハイキングもやろう。そして、それらを回遊するコースをゆかりの須摩寺とタイアップして記念給馬つき「平家物語須摩回遊券」として主要駅と営業所で発売

しよう。土産品も、青葉の笛、絵はがき、せんべい、記念メダル、ベナントもつくって販売しよう。また、それがための宣伝PR用の各種印刷物も。

今から考えると、どうも始めからツキが悪かったらしい。三月のある朝、出社すると山上の係長から電話がかかって来た。「課長、昨日あげた砦の旗がボロボロになつてまっせエノ」「何んやて?」「昨日の晩の風でやられたらしいですわッ」「昨日あげたばかりやないか、そんな阿呆なノ」「そやかて、布がもう半分も飛んでおまへんでノ不細工でつさかい残りの布も取つときまほか?」、前日展望閣の塔上に「一の谷砦」と染め抜いた大きな赤旗をわざわざ驚職に頼んで押し立てたばかりであった。それが一夜の強風で破れてしまふとは。「しゃアーないなァーほんまにノもつたない。そやけど、取らんでもええでエ、不細工やゆうてもそこは源平の激戦地やったとこやから、かえって感じが出でええがなァ。お客さんがゆうたら(ヘエー)なんせ激戦で砦の旗もボロボロになつてしまひましたんや。ゆうときイー」負けおしみもいいところである。

さて、その敗因と考えられるのは、ドラマそれ自体が当初予想したほど人気を呼ばなかったこと。

物語の登場人物と場所が多くて興味の焦点が分散させられた。テレビの画面が殆んどセット撮影のため臨場感に乏しく現在との結びつきが稀薄だった。源平史跡めぐりは、年配者が少人数で静かに觀賞して往時を偲ぶもので、若人向きではなかった。銭子<sup>せなこ</sup>をかけ、力を入れてやったのに平家と共に敗北とはまったくなさない。諸行無常という中で、それでも觀光客の増えたのは、生田さんと須磨寺さんとか。全く神さんと仏さんにはかなわない。

## 友達のこと

### 足立 告陶

△書家△



「朋あり遠方より來たる、亦た樂しからずや」とは論語の一節であるが、この場合の朋は、同じ道を求めるものといった意味に解釈するほうが深いように思う。しかし、そう決めてからなくとも、言葉の真理がまったく失われるわけではない。

ところで、私は、昨年十月、神戸で書作展を開いたが、その折、

まこと、その言葉通りの光景が展開され、無類の感激を味わったのであった。書作展の案内状は、北海道から九州まで、書の関係者を中心に約千五百通を発送した。あまり遠方からこれられることはないで、その場合は、案内というより作品の写真を見てもらう程度のことになる。それを受け取った高校時代の友人、T氏は、千葉県から駆けつけてくれた。丹波への帰省予定を早めてのことであつたが氏こそ、正しく遠方よりきたる友であり、もちろん私の感激は大きかった。ほんの一刻をともに過したのみで、氏は車中の人となつたのである。

伊丹のK氏は、幼な友達であるお互い阪神間の住民でありながらここ十数年来会う機会に恵まれなかったが、ひょっこり来てくれた。氏と顔を合せると、自ずと、田舎の山や、小川の話になる。策を持って、泥鰌や鮒を追い、田螺を取って囲ったことなど、話は尽きない。M氏や、Sさんも、幼い頃、いっしょに遊んだ人たちで、会えば、心の底から無数の記憶が甦る。私自身の心の故郷であり、みなれた風景と共に、彼らは、今もなお生き続けているのである。

ところが「去る者は日に疎し」という言葉がある。先に書いた人達は、ほんとうに懐しい人達であ

る。だがすでに、知己とはいえないのである。なぜなら、私も、彼等も、今はまったく異なった環境の中で生活しており、お互が何もしないのである。人生や、芸術や、生きがいについて追求し、ともに励まし合える友を、私は、知己と呼び親友と呼ぶことが許されると考えるのだ。だから、それは、常に、現在にかかわる問題である。

今、私の周囲には書友が沢山いる。しかし、彼らの全部が知己といえるかどうかは疑問である。そうした中で、藤本良和氏は、私が知己と呼べる一人である。ところが、氏とは、今日まで数回しか会っていないのである。氏は、昨年北京で、百万円もの大金をつぎ込んで彫刻展を開いた。その徹底振りは想像のつくところであるが、芸術の何ものかを一心に求め、漂泊を続ける人生の旅人である。氏は、私の書についてあまり語らなかったけれども、四国から、わざわざ出かけてくれたのである。私は、氏と語りながら、理解をより深めたのである。私は、道を同じくすることが、まったく掛替えのない心の友を生むように思う。そして、真の友は、結局この上なきライバルなのだと思う互いに向上しあえる者こそ、知己と呼ぶにふさわしいと考えるのだ藤本氏とは、そういう人である。



□ある集いその足あと

## 神戸スキー倶楽部

門倉 国夫

〈神戸スキー倶楽部会誌〉



スライドや写真をみながらのミーティング

岳地方の山々へ足をのびし、県下丹波但馬の雪のある山へもスキーを通じて登るという当時としては進歩した道を進んだ。スキー技術も暗中模索の時期、冬の登山にはガンジキ・オンリーのなかで、これはとんでもないことであつたかも知れない。

そのとんでもないことをしてかした人達の中に神鍋山スキー場の発見者の三木高嶺氏、直木、三木小川氏等と当時のRCCのメンバーの水ノ山、鉢伏山、瀬川山の踏査、妙見山・蘇武岳の初縦走を成功させた直木重一郎、杉浦実、大塚の諸氏があり、兵庫、鳥取、岡山県のある山々の多くを紹介している。

間もなく大陸に不幸な戦火が拡がりやがて戦いは日米の間にまで拡がった。昭和十六年冬、神戸スキー倶楽部自然解散に至る。これを第一期の時代。

戦争中は会員間の連絡皆無。戦争はこれらの若い命を南へ北へと、かい出していった。

昭和二十年、戦いはやんだ。戦いに駆り出された山の友達、四十二名中戦地から帰り得たものわずかに四名。

昭和二十二年一月、夜の小道を四つの影がモクモクと歩いていった。鉢伏山へ。

この年から約十年、新しい神戸

スキー倶楽部再建の機運がたかまる第二期の時代である。

二十九年ようやく一部旧幹事と一名の旧会員との連絡に成功、その承認を得て倶楽部名を復活、昔のツアースキーを重点とする異色のスキー倶楽部として発足。但馬山群を中心とするツアースキーを実施、特に鉢伏山の紹介には全力をあげた。再建後の若いメンバーはその情熱を雪と山に捧げてくれた。

我々もスキー倶楽部の名の通りゲレンデスキーもやる。そしてその完成されたものを二十〜三十軒のリユックをかついで自然の山野でこれを試みる苦しいスキーになる。この苦しさときびしさを乗り越えてきた人達が今の神戸スキー倶楽部をささえていく。筒井、藤本、岡本、本岡、為本、小川、浜、井武、内匠、岡村太美子、臼井匡子等、この若い力は今でも倶楽部の先人達の通ったであろうツアークースを一つ、又一つと滑っている。人影のない雪の山は、と走り廻っている者もある。

倶楽部再建後十七年、但馬山岳地帯における部員の活躍はここに書かない。何年か先に多くの人達が思い出話として語り継いでくれるものと思っている。

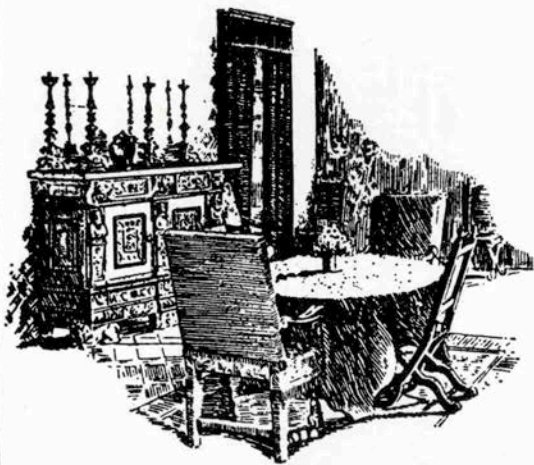
現在の活動人員約六十名（再建後の延べ会員三七六名）

大正九年、およそスキー場などとのつくものもなかった頃、神戸六甲山スキー場の斜面で、当時中学生の津田周二氏を中心に数人のグループが初めてスキーで雪の上を滑った。

このグループを人呼んで六甲スキー倶楽部、神戸スキークラブの前身である。

数年後、藤本九三、三木高嶺、小川正十郎等が中心となり神戸スキー倶楽部として創設。雪と山に心ひかれた人達の集まりは中部山

欧風家具・婚礼家具



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737  
(代表)

東京店・東急百貨店 {日本橋店内6階 TEL 03(221)0511  
本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35  
神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

新しい神戸の銘菓

サクッ!としたお口あたりの新しいチョコ

コウベピア-



10本入 200円 30本入 600円 50本入 1,000円

神戸にそだって75年

神戸  
元町



風月堂

元町3丁目 TEL391-2412~5

さんちかスイーツタウン TEL391-3455

□ずいそう

# 神戸で 飲む酒

田辺 聖子

神戸でもっぱら飲んでいるので、もはや、大阪には足が遠くなってしまった。町ずまいのありがたさ、そして神戸という町の大都会ではないよろしさのおかげで、車で走れば十五分ばかりのところ盛りの場があるから、これはちょっと、京・浪花まで足をのばす気にならない。

だいたい私は、何でも自分が現在やっていること、持っているもの、住んでいるところが今まででいちばんいい、と思いきわ結構なクセがある。しかしそれでなくても、神戸のまちは結構であるにちがいない。

あんまりだだっぴろいと遊びにくい。せまい点



酒仲間と「しゃねる」に集う筆者(右)隣り御主人川野純夫氏・マンガ家の高橋孟氏

が、家の軒でのむみたいでよろしい。へべれけに酔って、タクシーで十分で帰り、寝床へもぐりこめるなんて、極楽である。

私はたいいてい夕食がすんでから、カモカのおつちちゃんと二人で出かけるわけだ。このあいだからあんまりつづげざまに出かけたので、何だか子供たちの手前にもはずかしく部屋にふとんを敷き、カーテンを引き、戸をちゃんとしめ、電灯を消して、もう寝入ったてい、にみせかけて外出し、どんなちゃんさわぎをして午前一時、そーっと足音をしのばせて帰ってきたら、廊下で娘とバツタリあつてしまったのだ。



「アレック」

と娘は立川文庫ふうな叫びをあげ、一瞬私をユレーイと思ったそう。

「だって、もう寝てるとばかり、思ってたんやもん……」

と呆れ、一ぺんに私の信用はガタおちになった。こういう気苦労をして夜、飲みに行くときもあるのだから、お客というものは大事にせな、あかんよ。

食事をしないで外でとるときは、たいてい新開地の聚楽館前のおでんや「高田屋」、すしは「やぶずし」ほかに新開地通りの「百万両」、てっちりを食べるときは「丸太ごうし」、焼鳥は「天竜」、まだあるけれど、新開地はわが家から近いのでよくいく。このあとは、「エース」というバーに寄って仕上げる。

ここから車で帰ると五分もかからない。福原のまん中を歩いてぶらぶら帰るのもたのしみなものである。

三宮は食べるところはたくさんあるが、飲む店はないがいきまわって、柳筋の「しゃねる」だとか、生田新道の「でっさん」とかである。客をつれていってよるこぶ店に「セブン」がある。「でっさん」も連れていった人みんなが気に入る店であろう。冬の「キングスアームス」もいい。人につれていってももらった店は、たくさんあるのだけれど、そういう店はたいがい、酔っぱらってゆくので、二度と道のわからぬところがくやし。

新規開拓をいつも心がけているのだけれど。

あたまたのハッキリしているときは家にいて、酔ってモーローとしているときに出あるくのだから

どこへいったらいいかわからない、実にせつない。私が、いろんな店を知りたいな、と思ってる証拠には、「神戸っ子」にのってる地図に、知ってる店はいちいちシルシをつけて喜んでることも、知れるであろう。

店をえらぶ、というのではないが、やっぱり体調と気分によって、歌を歌いたいときがあり、そういうときは歌ごえ酒場になってしまふ。「しゃねる」がそうだというのではないが、何だかここで酔っぱらうと歌いたくなる。而うして、私はこの店ではいつも酔っぱらうから、いつも歌うのである。

そうして、ひとり静かにグラスを傾けていられる他の客のたのしみを邪魔し、かきみだしてしまふ。どうも中年女というのはいけない。本人も恐縮している。しかしこれが、言うてきかせて話のわかる人間ではないのだ。酔うとあつかましく、図々しく、歌をうたわさなければ、どんなことになるかわからない。

いつもの通りおさらいをして同じ歌ばかり歌って（よくも飽きないことだ）酒を飲んで外へ出ると、空つ風がびゅうびゅう、高架の上を灯のついた長い列車が闇の向うへ走っていった、三宮の空はネオンでぼうと赤くタクシーはなかなかつかまらないから、すこし山手へ向ってあるく。もう市章の灯も消えていて、小さな星が光っていて、よく知りつくした町なみの家々はみんな寝静まっている。

神戸って、いいなあと思ひながら帰ってくるのです。私の部屋の延長みたいな街なんですね。

〈作家〉

□れんさいずいそう〈2〉

# 酒は灘

楠本 憲吉

え・貝原 六一



俳句の季語に「杜氏来る」というのがある。昔から灘五郷をはじめ、池田、伊丹などの蔵人はおもに「丹波杜氏」といって、丹波の山奥の農民で占められていた。杜氏とは、各地の酒造家のもとへ、近県から農閑期を利用して、出稼ぎにやってくる人々の総称である。

十一月の仕込みにやって来て、三月に帰るので、「百日さん」という異名もある。この杜氏は当て字で、本来は「刀自」「家刀自」からきたもの。老母または主婦の意。

杜氏は相撲ならば横綱格。その指揮下に、頭、代師（麴師）、甑回り、釜屋、道具廻しその他と

いうように専任者の人々で構成されている。沐浴して身を清め、妻子も遠ざけ、女人禁制の場で酒造りに没頭、精進一路の男仕事にからだを張るわけだ。

しかし、今や酒造りも大規模な近代企業となり、冷凍機の発明により、四季醸造の時代になった。

つまり「杜氏来たらず」の時代になったのである。

神戸空襲で丸焼けになった御影の酒造地帯は、今や鉄筋コンクリートの巨大な近代工場街と化し、一工場あたり年産五万石のマンモス醸造を誇

っている。

あの昔懐しい大きな仕込桶は、ブルー一色の横式大型タンクに代わった。ちなみに、タンクは二五〇石入り、一升ビンに直すと二万五千本分という。キツネとかウマとかカエル、三味線といったユニークな名称で親しまれていた伝統の酒造小道具もすっかり姿を消し、すべて合理化、機械化されて、人員は在来の工場より半減、坪当たり生産量は三倍という近代的脱皮ぶりである。酒造りの歴史と杜氏の手垢とが染み着いた酒造りの諸道具は文化財として美術館に眠っている――。

エアーコンディショナーの完備した工場には近代的醸造機械が配され、酒造という古くさい語意からは、ほど遠い雰囲気である。中央コントロールの命ずるまま、機械は四六時中正確に活動しているわけだ。

私の少年時代、御影や東明の浜には大きな仕込桶が干し並べてあり、酒蔵の並ぶ路地にはひんやりと酒の香の漂う、静かに澱んだ落着のある町並みであった。

そういった古い町の姿勢は消えたが、やはり、灘といえは、誰しもが芳醇な酒の香りを思い浮かべるだろう。

一体、この「灘」とは、どこかというところ、神戸市の灘区から西宮市にかけての沿岸地域のことをいうのだが、かつては「灘目」と呼ばれていた。灘辺の転訛だろう。ここに近世中期、十七世紀以降に清酒造業が発達し、今日まで有数の酒造地帯として全国に名を馳せてきた。その中心がいわゆる灘五郷で、今津、魚崎、御影、西郷、西宮の五地域ということになる。

この地に酒造業が発展した主因は、なんといっても宮水に恵まれていることだが、他に、摂海の湿気、廻船に便利な立地条件、六甲の寒風、丹波杜氏の技倆、吉野杉の香、摂津の米などがあげられよう。

「宮水」は西宮市の海岸から約一キロぐらい離れたところ、東西五〇〇メートル、南北一キロにわたる小地域の地下五〜六メートルのところに湧く。この水は、もともと夙川の伏流水だが、地下の貝化石のカルシウムを溶かして硬水となり、さらに宝塚方面から流れ込む炭酸分や六甲山の花崗岩層を通過してくる鉱物質を含む地下水、それに海から浸透してくる塩分を含んだ水、これが地下でまざったものである。

宮水の特長は、他地方の水と比べてリンの含有量が約十倍もあることで、これは酵母菌の繁殖にきわめて有利とされている。酒造米中のリンを含めると、酒を造るのに申し分のない量になるわけである。これに対して、鉄分の含有量は他の三分の一しかなく、これも酒質にいい影響を与えるのだそう。しかし地下の浅いところを流れるため大雨などの影響を受けやすいこと、また海岸に近いため、水を汲みすぎると海水の浸透が多くなり塩分が強くなるという厄介な点もある……。

最近では、阪神高速道路、山陽新幹線、それに鉄筋ビルの建設などで、宮水を生成している表層地下水の流路を断たれはしまいかと灘五郷のメーカーは神経をとがらしているようだ。

現代の醸造化学の力をもってしても、いまだに解明できないでいる宮水の神秘があるかぎり、左党にとっては、この古さをいつまでも操守してほしいと切に思う次第である。



□れんさい随想〈2〉

# ブラジル

## 無宿

津高和一

〈画家・大阪芸術大学教授〉



おもえばはるばると長途の船旅だった。一カ月半も海ばかり眺めての生活は、もう再びくり返したくはない、というおもいが、サントス港の黒い荷揚げ足たちがうろうろしている岸壁に船が着いたとたんにおもったものである。

僕はこの渡航の以前五、六年前に、一度このような機会があった。

友人のAが『借金など返済せんと、外国へ思い切って行ってこいよ、そやないと一生行けんぜ』となかば煽動的な言葉を提してくれたことがあった。

だが、気づかってくれるのはありがたかったが

腹の中では、何をぬかす、とおもったものである。外国に出ることがそんなに必須科目のようにもおもえなかったし、また、行く気になれば機会はいつでもあるとおもっていたからでもあった。

日本の抽象画家の生活は、そんなにかんたんに反対給付を受ける状態ではなかったのである。わが身を食っているようなものだった。わずかばかりの伝来の土地を手離したのもその頃だった。

先ほどの友人のこともその時の話であった。それがどんな風の吹きまわしか、五、六年後のいまその気になり、いまでも下船に手まどっているサントス港の岸壁の風景を甲板から眺めながら、回想

は以前のそのことを思い出していた。航海中の最初の寄港地サンフランシスコ、ロスアンゼルス、パナマ、キュラソ、カラカス、ベレン、リオ・デ・ジャネイロと南下するにしたがって、風土や人間習俗も変わっていったこと。また停泊中の何日かを、荷役が終って出帆するまでの短い日時を待ちかねたようにして、それぞれの港街に上陸して歩き廻った。

坂の多い街を走っていたサンフランシスコの市電、ゴールデンゲイトが対岸で煙っていた霧のこと。ロスアンゼルス日本人街のすし屋のカウンターが変に高かったこと、崩れた壁に貼ってあった長唄教授の看板、病院を経営していた女房の叔父（医師）の家に古い日本紙幣の貼った屏風、一晩中眠れなかった街道ばたのモーター等、最初の太平洋の寄港地であるだけに印象が鮮明だった。そういえばサンフランシスコで密航者が移民官に連れられてタラップを降りていった岸壁の倉庫群の暗灰色の空のことも忘れられない。

パナマでは各国の国旗の色彩が古風な運河に映えていたこと。キュラソ島ではうす暗い土間で、あの変形の酒瓶にラベルを貼っていた家内仕事の黒人の女工たちのこと。リオ・デ・ジャネイロでは思いがけない日系の画家だというマベ・マナブ氏等が船まで訪問してくれたことなどが、まるでフィルムを逆転するように一気に反転するのであった。

かねてブラジルでは、いらいらしたほうが負けだと聞いていた。なるほどその意味がじわじわと身辺で察知された。

船のタラップの下で立哨している税関吏と出迎

人の誰かがしばらく交渉して握手を交して上ってきた。なるほど、そうかと思うのである。

かねてこの国はアミーゴ（友人）とクルゼイロ（貨幣）が先行すると聞いていた。結局移民たちの下船は税関構内の待合室で翌日となったらしい、というのは、半公用的な僕の旅行目的のために、領事館家族の同船者と一緒に一足先にサンパウロの街へその夜のなかに迎えたからである。

僕の止宿したのは、ホテルニテロイという日系人経営のホテルで、三階以下の日本映画館も同じに経営者というわけだった。

ガルボンブエノ街というこの辺一帯は日本人が多く住んでいた。

ごみごみしたロスの日本人街とどこか一脈通じるものがあった。日本の食料品、衣料、書籍から食堂、バー（コーヒー、酒、煙草、雑貨類販売）から料亭と称する昔の日本のカフェーのようなもので完備していたのである。

僕はここで意外なことに気づいた。それはサンフランシスコやロスなどで出逢った日系人たちとどこかが異っていることであつた。

なるほど、北米の日系人たちは立派な体格をしていたがどこか精気が欠けているようにおもえたのだが、上陸以来ブラジルの日系人たちは元気がよいことだった。それに鋭い眼をしていることだった。これは柔和な日本の移民たちと同船していたからよい感じに感じたのかもしれない。

だが、その背後には背負った数々の苦難な開拓の歴史の痕跡がまざまざとしていたからだと思つたのである。これはその後ずっとブラジル滞在中僕は誰にもこのことは喋ることはできなかった。

愛の心  
こぼれ落ちた  
ひと粒のパール



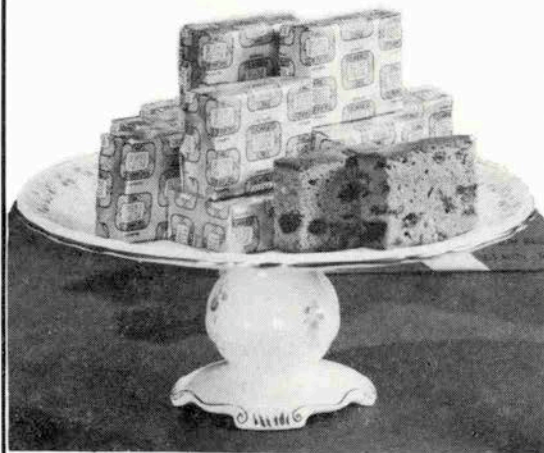
北村真珠店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072

シュガレスケーキ

新発売!!

含有砂糖ゼロ  
「健康食品」



シュガーレス プラムケーキ

ドイツ菓子

Fachrein's

ユ-ハイム

本社 三宮生田神社前 TEL (331)1694  
三宮店 三宮大丸前市電筋 TEL (331)2101  
さんちか店 三宮地下街スイーツタウン内 TEL (391)3539  
貿易センタービル店 三宮貿易センタービル地下1階 TEL (251)0139



## ☆神戸っ子座談会

# 問われる神戸の未来像

□出席者 〈アイウエオ順〉

石井 一 〈衆議院議員・自由民主党〉

浦井 洋 〈衆議院議員・日本共産党〉

河上 民雄 〈衆議院議員・日本社会党〉

渡部 一郎 〈衆議院議員・公明党〉

今日は兵庫第一区、すなわち神戸から当選されました四人の代議士の方々にお集りいただきましたので、神戸とかかわりあいやこれからの課題などについていろいろとお話をうかがいたいと思います。

### ★神戸と私

浦井 神戸とかかわりあいといいますと、私は神戸から離れたことがないんです。親代々といいますか、西神戸で生まれ育ちましたし、学校は小学校、中学校、大学とすべて神戸です。神戸を離れたのは昭和二十一年です。医大の予科が篠山にございましてその時に神戸を離れたぐらいです。それと三年前に初当選をして週に四日ぐらい東京にいるのが神戸を離れた時です。厳密にいえば、狭い意味の神戸というのは兵庫、葦合、生田の辺が神戸ですね。私の生まれて育ったのは長田区です。それから広義の神戸でしょうね。

渡部 私は神戸へ移ってきたんです。中国の大連運市でまれて奉天で育ったんです。16歳の時まで中国にいて、それから引揚げてきたんですが大学を出てから、神戸へ戸籍を移し、現住所を移し、昭和38年頃から定住するようになりました。考えてみれば私は、いろんな所を移動しましたけれども、神戸は本当にいいところですね。親代々神戸にいらっしやるという浦井先生のような幸せな

かたは半分ぐらいなんです。〔笑〕あとかたは親は別で生まれも別で、後に神戸へ越してこられたという方が非常に多いんです。だから私はいつも「移住民代表だ」といって笑うんです。〔笑〕そういう意味で、神戸にきて感激していることがあるんですが、その一つは食べものが新鮮で美味しいということです。もう一つはものの値段が比較的安いということです。東京暮らしのときくらべると神戸は二割は安い。これは感激でした。それから神戸の人情と、合理主義といった感覚がいいですね。

河上 私は灘区の原因通りの辺で生まれましたが、現在長田区の大谷町、すなわち西代の市民グラウンドの上に住んでいます。私、神戸で非常に感心するのは、神戸というのはいよそからきた人がすなおにソーツを入れるような街なんです。特に外国人を見ていると東京なんかですといかにもよその国にきているといった感じなんです。神戸の外国人というのは自分が神戸っ子だと思っただけで街を歩いたり生活したりしているようですね。その辺が神戸の一つの特色じゃないかという気がします。

渡部 排他的ではないですね。

石井 私は生まれたのが須磨です。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学とも神戸です。今までの三〇数年間の



石井 一氏

政治家の責任でもあると思っています。第二に指適できることは神戸の産業なり経済が今かならずしも上向きの調子ではないということですが、やはり住みよい街というのはかなり長期的な計画のもとにでき上ってくるもので急にできるものでもありません。明治の先人が築いてくれた住みよい神戸の街も、今や環境破壊と経済の斜陽化というピンチに悩まされているわけですが、これを今後どうしていくかは政治家をも含めた神戸っ子の英知を集めて考えていかねばならないと思います。

# ★今日の選挙と実現したい施策

人生の中で一時外国へ出ていた時を除けばほとんど神戸に生まれ育ったわけですから自分はきつすいの神戸っ子だという意識ももってますし、誇りも感じています。神戸は住んでみるといろいろ不満もあるし、また、住めば都という意味で満足感もあります。やはり他の都市とくらべると非常にユニークな個性のある街だと思っています。東京ほど人が多くなると地域意識もなくなるし、いろんな点で住みにくくなってる。その点神戸は日本の中でも一番住みやすい街の一つでしょう。その背景には美しい六甲山もあるし、だいぶ汚なくなつてはきているが海もある。今後もそういう自然を守るといことはわれわれ

河上 この間の選挙はみなさん一緒に戦ったので共通の感想をお持ちのことと思いますが、それにしてもえらい選挙でしたね。(笑) 当選ラインが以前の六万五千票から九万五千票へと三万もはね上って、選挙というのは勝つても負けてもこわいものだという気がしました。これは一つには都市部と農村部とで定数が非常にアンバランスになつてきているんですね。今までは農村は少数激戦で、都市部は多数乱立という傾向があったのですが、今度の選挙では都市部でも少数激戦になつたために定数のアンバランスというのが投票結果の中に出てきたような気がしますね。私は選挙を通じて自分一人の力は非常に弱いもので、みなさんのおかげでここまでたどりついたような感じがするのですが、選挙最中に板宿の近所でバスを待ってる列の中に小学校の二年ぐらいの女の子だと思うんですが、宣伝カーがきましたらその女の子が母さんの手を振りきって車道へ飛び出してきたんです。なにごとかと思つて車を止めました



浦井 洋氏

浦井 洋氏





渡部 一郎氏

実現したいことは公約でのべたことを誠事に実行することです。党の基本路線の自由とヒューマニズムを守るためにやるわけですが、特に私は、今後の重要かつ深刻な課題である民族の生存をかけた公害問題へ

渡部 選挙の感想といいますと、先程河上先生がおつし

ら、私の手の平に十円玉をくれたわけです。こんなかわいいいキャンバは生まれて初めてでした。こういった市民の気持を複雑な政治の中でどういうふうに生かしていくかはこれからの私達に課せられた責任だと思っています。これからどういうことをやっていくかについては党の方針を具体化していくことになるんですが、公約した公害対策、社会保障の充実のために努力したいと思っています。特にお年寄りの医療費の無料化、三歳児以下の医療費の無料化、妊産婦のための施策などに力を入れたいと思っています。



河上 民雄氏

を根本的に考えなおさなくてはいいなと思います。もう一つは選挙は不合理である、という感じを避けられないですね。というのは、力のない人、権力から遠い人は政治的な表現をするのに非常な努力とエネルギーがかかって結局負けてしまう。世の中は権力のある人、お金のある人のいう通りになってしまう、という面が政治の場合露骨に出てくる。私はそれを痛感してるわけです。それと選挙というのはお金がかかりすぎることです。私は街を歩いてまして、こういう方に代議士になっていただきたいと思うような立派な人に毎日のようにお目にかかります。私はそういう方々の意見を代弁しなくてはいいけないと思いますし、私もやる意思はありますが、そういう人たちは組織力とか金とかをもたないために、政治的表現ができない場合があまりにも多すぎる。こういう不合理な状態や不満は議会民主主義を根底からぶちこわすエネルギーになってくる。そういう意味からもこのような選挙制度は変えないといけないですね。

やいましたようにえらい選挙でしたね。選挙技術が優秀な力のある政治家を当選させるために激烈であるならいいと思うのですが、ある意味ではそういう資質とは全く関係のない部分の技術開発が行なわれている。たとえばポスターをどうするかとか、ポイズをどうするかといった問題に重点が置かれすぎている。本当の政治家の資質を選ぶという点では、意味のない部分に重点がかかっていることについて、私は選挙



の対決にとりくみます。それから経済成長第一主義の日本の政治を福祉第一主義に切りかえることです。

浦井 確かに今度の選挙はきびしかったですね。だから通していただいてからの後の期待がまたものすごいんですね。当選した翌日だけで、数えてみましたら六十七通もの電話がかかってきたんです。三年前にはそんなことはなかったんですが、その電話の半分位は名前を明かさずに難病公費医療の実現とか、安い家賃の住宅を建ててほしいとか、それぞれの方々がもっておられる切実な要求、要望を生で電話でぶつけてこられるんです。通ったけれども責任は重大だなあという感じを三年前にくらべて非常に強く感じましたね。

私のところは窮極的には全国一区比例代表制ということとを主張しているわけですが、さしあたっては定数は正をやらなないといけないと思います。もしそれができてしかも現在のこの中選挙区制というものをこのままつづけていくとするならば少なくとも府県単位の比例代表制、すなわち一府県を一つの選挙区にするぐらいの形にしてできるだけ正確に民意が選挙に反映するといった形をとるのが民主主義の基本ではなからうかと思えますね。小選挙区制というのは無効票がたくさん出てきますので民意を正確に反映しないからいけないです。

私のやりたい施策としては選挙中に公約をさせていただいたように、神戸を含めて全国的に住民本位の住みよい国土建設を基調にしてやっていきたいと思っています。それから私は医者でもあるわけですが、健康保険制度がもう壁にきてどうにもしようがないので、患者の側からも医者の側からも使いやすいような健康保険制度に変えていくといえますか、抜本的に改正していかないといけないと思っています。そして難病、乳幼児、お年寄りといった人たちに対する公費医療制度を充実させたいし、特に都会で今問題になっている救急医療体制を国の援助のもとに自治体が責任をもってやるようにしたいと思っています。社会福祉の問題は障害者の医療、仕事、教育を保障

するといったことが大事ですし、年金も積立方式から賦課方式に変えないといけないですね。また選挙のいろんなアンケートをみても一番関心の高いのは物価の問題ですから物価の安定というのは火急の問題だと思っています。

そのためには国会の権能を最大限に発揮できるような措置をとって物価の安定に努力するつもりです。

石井 従来神戸は革新勢力の強い街ですけれども今度選挙をやりまして自民党が私一人になってしまつて、自民党も都市政策や日常活動というものを改めなければいけないと思います、大いに反省を感じています。

それから今の日本の政治家の平均年齢は六〇歳ぐらいですが、神戸選出の代議士の平均年齢は四〇歳ちょっとなんです。そういう意味で神戸っ子というのは目先きが利くというか、非常にシャープな感覚をもっているということを選挙を通じて感じましたね。ただ投票率が六〇%をきれているということは一〇人のうち四人以上は投票に行っていないんです。私はやはりこの中には若い神戸っ子が多いんじゃないかと思うんです。もっと強力に一票、一票を行使していただかないと、せっかく若い代表を選んでくれている神戸っ子でもあるから、政治をもっときびしく監視していただくと同時にもう少し積極的に政治への参加をしてもらいたいという思いがあります。

私も現在の選挙制度には矛盾を感じますし、定数の正はやらなないといけないと思います。それと選挙の時にはいろいろな公約をきいても実際にはそれがあまり実現されず、一向に変わらないじゃないかというのが政治への不信としてあると思います。私がこれからやろうとしていることは都市の声を十分に代弁するということですが、前にも申しましたが神戸は住みよい街ではあるけれども、今ピンチに直面しています。このピンチをチャンスに切りかえていくための具体的な発言、行動をしたいと思っていますし、神戸の美しい自然を守り、国際港

都としての機能を十分に發揮するための街づくりをしていくのが政治家としての責任であると考えています。

### ★これからの神戸の姿

浦井 神戸の街に限らず、街というのは人間が住むところですから住民が平和に豊かに安心して住める街にしていくなことが大事ですね。神戸は明治維新以前は寒村であったわけでしょう。明治以後は開港に指定されて特異な発展をしてきたわけですが、港というのは神戸のシンボルですから神戸港が平和な貿易港として繁栄していくということに基調をおかないといけないと思います。ただそれには、そこで働いている人たちが安心して働けるような労働条件や厚生施設を整えないといけないですね。

それから神戸は海と山の自然環境に囲まれた街ですから、この海と山を美しく保全していくのが我々神戸市民とくにそこから選ばれた国会議員の大きな責任だと思えますね。私としては公害をきびしく規制しながら瀬戸内海環境保全に努力していきたいと思っています。

山については実は六甲山頂に米軍の通信基地がありますのでこれを撤去すべきだと思いますね。最高峰に基地がありますので、アルピニストにいわせますと最高峰に登山家が行けないというのは山として台なしだということですよね。そういう意味からも六甲山頂の米軍基地の撤去、そして六甲山を緑の山にするための保全計画をたててそれを実行していきたいと思っています。

街については、むやみやたらに幹線道路を市街地に通して公害だけを残すようなことはやめて住民が安心して快適に住めるような街づくりをやりたいですね。

それから今まで陽の目をみなかった中小企業を主体とした地場産業をもっと発展させるような措置を講じていかないといけないのではないかと考えています。

渡部 まず神戸市の面積を調べないといけないですね。神戸市は琵琶湖や淡路島や東京都とほぼ同じぐらいの面積なんです。東京都は最高の失敗例で、そこに一千万

人もつっこんじゃったんです。これでは道路がだめ、緑がだめ、空気が汚ない、こういう都市づくりをしてはいけないわけです。ところが神戸市というのは六甲山から南側は東京都なみの過密状態で、北側は過疎地域に等しいような状態なんです。神戸は日本の一つのパターンのようになって、過密、過疎問題がこの小さな市のなかにあり、背後の開発によって八〇万の人口がここ一〇年ぐらゐの間に増えるであろうと予測されていますが、へたをするとう人口がさらに三百万、四百万と増える可能性もあるわけです。ですから神戸市の行政で今一番大事なことは人口を増やさないということです。人口増加に今のうちブレーキをかける施策をとらないと、神戸は住みやすいというので人口が増えすぎて、日本でも最も住みにくい街の一つになってしまう恐れがあると思います。

二番目に神戸市の中心である生田区と葺合区ではドーナツ化現象が起りまして人間が少なくなっています。市街地改造計画でいつも遠くへ追いやられるのは貧乏な病人の多い層なのです。ひどいのは港で働いている人たちの宿舎を六甲のかなたに造るものだからそういう人たちは山のかなたから港まで遠々と通勤してくるわけです。ですから市街地改造計画の原則は住民地域を含んだオフィス街にしないでなければならないということです。そして通勤距離を縮めていかないと交通は混雑し、料金は増々高くなってくる。

それから神戸は国のやる施策を先取りして、文化的、福祉国家的政策を早くやつてもらいたいですね。そのためには地方自治体への権限強化、財政の拡大をやっているかといけません。これは神戸の皆様を選んでいただいた国会議員としての、私の大きな仕事だと思っています。

河上 渡部先生もおっしゃったようにこれから人口がどのくらいになるかということが大きな課題でしょうね。外国の例とは比較しにくい点もあるのですが、西ドイツでは百万人以上の都市というのは非常に限られていて、



だいたい六〇万ぐらいでも大都市の風格はもってるわけです。日本は百万から二百万ぐらいでない大都市でないといった感覚がある。都市としての風格をもつにはかならずしも人口が基準ではなく、そこに住んでる人たちがどういうふうに住生活を楽しんでいるかということにかかってくるんじゃないかと思います。

神戸は大阪や京都が近くてどちらかというとそれで間に合っちゃうこともあって文化的施設がなくても神戸の市民は今まで平気でできてるんですね。しかしこれは将来大きな問題になるんじゃないかと思うんです。というのは今までは港や重化学工業などで男性的な都市として伸びてきたわけですが、今後同じような姿勢でやっていくかどうか、それとも別な形で文化的な都市として立ていくかむづかしいところですね。

第二に神戸の街は家なみが低いということです。もちろん東京でも平均すると一・七階ぐらいなんですけれども非常に高層ビルがたくさんあるわけです。神戸の場合はそれが少ない。結局人口が増えてくるかどうかという点にもつながってくるのですが、裏六甲の開発でも市街地のあふれた人口をそこへもっていくといった感じが強くて、そこに新しい町づくりの理念は感じられないんです。

それから新幹線が次第に伸びていくと、一方では栄える街と、他方では衰える街とがでてくるんですね。おそらく名古屋は将来本社機能というのがだんだん失くなっていくでしょう。自動車産業などがありますからまだまだ栄えるでしょうが、やはり管理機能というものは次第に衰えてくるでしょうね。

神戸も今のところ新幹線が岡山止まりだからいいようなものの、これが九州まで伸びたりしますとどうなるかわかりませんね。

神戸の財界の人は経済的な地盤沈下だといわれていますが、そういつてる方々が川鉄の営業部門をみんな大阪にもっていったりして神戸に一番大事な本社機能を衰えさ

せているわけです。

したがって交通の便がこれからますますよくなっていくにつれて、これからの神戸をどうするかということを実際に考えなければならぬといえるでしょう。

石井 この前国鉄の駅弁の調査をした時に、それぞれの都市のイメージ調査をしたんですが、神戸のイメージは工業都市ということなんです。

われわれはもっと文化的な国際港都だと思っているけれども、一般の日本人は神戸を工業都市だと思っているようです。その背景には鉄鋼や造船や港湾というものがあるようですが、その機能は徐々に下がりがつあり、それが神戸経済の斜陽化といわれているんですね。それで神戸が三〇年先、五〇年先にどんな都市になるべきかを考えた場合、一次産業にも二次産業にもあまりたよらない、いわゆる第三次産業、知的産業集約型の情報産業都市というものが将来の神戸の姿として位置づけられるんじゃないかと思っています。

一次産業のようなものは今でも一部しかないんだし、川鉄とか神戸製鋼とか三菱とかいったものに神戸はたよっていく都市でもない。もう少し情報を集め、人を集め、財を集めるけれどもそれは三次産業のものであって公害を除去しながら福祉社会を実現していく政策の転換をしないといけないでしょう。

私の考え方としては、神戸は西日本の玄関口として、国際港都として、世界へつながる窓口として、陸も空も海もあらゆる観点から他の都市にないユニークな機能を発揮できるような街が将来の神戸の姿でしょう。

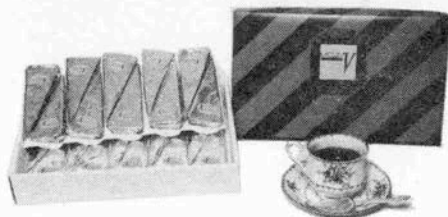
基本的には流通都市、情報産業都市を長い眼でみて神戸に建設していかねばならないだろうと思っています。

〈オリエンタルホテルにて／文責編集部〉



♡ 2月14日はバレンタインディ

とろける想い  
とろける味  
若い二人のラブタイム



ユーコン・パイ ¥1,000・2,000

2月14日、バレンタイン、あなたからあの方に。

彼とのひととき、ユーコン・パイは  
愛の使者、キュートなハートの橋渡し、  
今年こそユーコン・パイで、彼の  
ハートを射止めよう!!



北 欧 の 銘 菓  
**ユーハイム コンフェクト**

本社・工場・熊内店 ■神戸市灘区熊内町1 (市立美術館東隣)

TEL 221-1164

三宮センター街本店 ■神戸市三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン)

TEL 331-2421

さんちか店 ■神戸市三宮地下スウィツタウン

TEL 391-3558

そっと包む男らしさ

気品と格調 O-SHIBATA



**O-SHIBATA**

**柴田音吉洋服店**

神戸・元町4丁目南  
大阪・高麗橋2丁目

神戸 341-0693  
大阪 231-2106

新春のフレームの装い



'73型ワールドフレームの数々を品揃え致しております。お気軽にフレームでのメイクアップをしてはいかがでしょうか？

 **神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表

三宮店・さんちカタウン ☎(391)1874~5

あたたかさで——  
お部屋を飾ります。

手づくりの味 **ゴンチャロフ**



*Goncharoff*